

大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究科

- I 研究水準 研究 25-2
- II 質の向上度 研究 25-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、当該研究科は平成 21 年 4 月にスタートしたばかりであるが、平成 22 年 3 月末現在、原著論文は 41 件、そのうち英文誌は 38 件であり、国際会議における発表は 18 件、特許出願は 5 件である。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金は新規・継続含めて 17 件あり、受入額は 3,583 万円である。さらに外部資金全体では、1 億 6,616 万円にのぼり、専任教員一名当たりでは 755 万円であるなどの優れた成果がある。

以上の点について、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、統合失調症、双極性障害が神経発達障害を基盤として発症することを分子レベルで明らかにした研究や、社会、経済、文化面では、デュシェンヌ型筋ジストロフィーの発症にプロスタグランジン D2 が関与していることを明らかにした研究、自閉症の病態を解明した研究等、優れた成果がある。

以上の点について、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

なお、提出された研究業績説明書のうち、優れた業績と判断できるものが少なかったことから、今後の自己評価能力の向上が期待される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「相応に改善、向上している」と判断された事例が2件であった。